

100キロマラソンじゃあ〜なる

5241

997-0826 鶴岡市美原町30-24
☎0235(22)3669
090-2986-7724 携帯



1984年9月15日第1号発行〜

2009年11月15日

朝から雨模様、それに強風が伴っている。この天気では樹々は木枯れ
なってしまうだろう。七五三で宮詣りをする家庭もこの荒天を恨め
く思っているに違いない。寒波が怖いことだけは幸いだが、ランニングには全く
不向きだが、都道府県女子駅伝の県予選が上山市をスタートにして行われ、
TV放映もあった。残念ながら我が鶴岡田川チームは力不足でした。

Finishの前300メートル辺りからは両側に観客用の特別席が用意されている。有料なのであろう。両側か
らの声援の中多くランナーがFinishに飛び込む。4時間50分ほどで走れた様だ。メダルを掛けて貰い、
水と食料の入った袋を受け取る。バナナ、林檎、ベーグル、スポーツ飲料等が入っている。保温用のアル
ミ箔も巻いてもらう。食べながら、飲みながら流れに乗って、荷物のあるトラックを探す。番号が付いて
居るので直ぐに分かり、荷物も手際よく出して呉れた。荷扱いは慣れて居るのだ。其のまま更に進むとLori
の居る医療テントがある。立ち寄って中に入ろうとすると、医療の必要のない人は入れられ無いと断られ
る。Loriに鍵を預かって貰っているので如何しても会う必要があることを説明して、テントに入る。中は
てんでこ舞いの急がしさだ。600人余りの面倒を見たという。それでもLoriは外に出てきて、亭主のHugh
が一緒に写真を撮ってくれた。鍵を受け取り、先にアパートに向かう。Central Park内もランナーでごっ
た返しているが、公園西大通りや自然史博物館の北側の通りも交通を遮断し、ランナーや其の家族の落ち
合い場所としていた。市の行政も巻き込んだ大掛かりなレースなのだ。シャワーを浴び、後夕食を済ませ、
早めにお休みとする。彼等の帰りは遅くなるようである。

後でInternetを見て分かったことであるが、43745人が完走している。参加者の面では大レースと言
えよう。第一回大会の1970年の完走者が55人であったことを考えれば、急速な規模の拡大と言える。之
はNYのInfra整備が整っていること、アメリカ人の何でも一番思考があつて可能となったのであろう。
参加費はNY Road Runnersが138、その他が171、外国人は231ドルと極めて高い。単に走るだけで之
だけ掛かるのである。当初の参加費1ドルは遠い昔の話となっている。イベントの予算は当初は100
0ドル、今回は2億2800万ドルと成っている。実の228,000倍の増加となっている。

僕は話の種にこのレースを走ってみたが、二度と走る気は起こらない。モット小さな顔の見える大会が好
きなのだ。

翌日は自由行動の日だ。空もほぼ快晴の気持ちのいい朝となった。Central Parkに行ってみる。Finish
地点辺りのゴミなどはスッカリ片付けられている。只樞やテント等はまだ撤去の最中であつた。Finishの
手前の観覧席やFinishのアーチも手付かずの状態、26時間以上掛けて迎っていたと言う杖を突いた御
婦人がInterviewを受けて居た。勿論何人かのサポーターの援助を受けながらのFinishである。NYC
Marathonはこの様な所が他には無い特色であろう。Finishに向かう意思がある者の為には何時までも
Finishは開けて置くのであろう。公園内は紅葉が始まっている。この辺りの紅葉は赤と言うよりは黄色が
多い。特に銀杏の黄色が鮮やかだ。元々中国の原産であるが、人為的に移植され、今では彼方此方で見ら
れるように成っている。その後訪れた、CharlestonやCharlotteにも街路樹が見られ沢山の実が落ちてい
たが、実は見向きもされない様だ。食する習慣が無いのであろう。

その後はLower Manhattanに向かう。Union Squareの傍のスポーツ店に寄って見る。Trail Race
用の靴は此方の方が開発が進んで居るようだ。文無しの状態なので見るだけであつた。時間があるので、
NYC Hallの中を見ようとするが、館内は見学が出来ない様だ。西洋の市庁舎は殆どが出入り自由である
ので、異な感じがした。中華街が近いので、食事を其処で済ませる。スープ付きで4品程の昼食は5ドル
と安く、量も多く、金欠症には打って付けの食事であつた。

ウロウロと長い間歩き回ったお陰で、Loriが夜勤に出かける6時にはアパートに帰り着くことが出来な
かった。アパートに帰って鍵を開けようとするが開かない。鍵は上下二つ付いており、どちらも掛けてあ
れば預かってある鍵一つでは入ることが出来ない。階段に腰を降ろし、暫し考える。Hughが居ることに
成っていたが、彼も何処かに出かけた様だ。

このまま此処で待つて居るのも、退屈だ。いっその事Loriの病院に行った方が良いと思う様になる。公
園の東側のMt.Sinai Hospitalと聞いており、Loriは公園を横切って歩いて通っていると言って居たのを
思い出し、行ってみる気になったのだ。NYの病院を見ておくのも悪くないであろう。

途中他人に尋ねながら病院に向かう。5番大通りを北に向かい、100通りの手前にある大病院だ。受付で
Loriの名前を告げるが、居場所が分かるまで15分ほど掛かった。受付の男は名簿を調べ、暫く彼方此方
に電話して、ヤットLoriが緊急病棟に詰めていること突き止める。別棟に行き長い廊下を歩き、ヤット迎
りつく。大勢の患者の中を医療関係者が忙しそうに行き来している。処置室だけでも一度に100人程が横
になれるベッドなどが置いてある。其の横が普段彼女が勤めている小児科病棟だ。此処にも沢山の人が待
っていた。夜の8時を回って居るのに、外来患者の多いことに驚き、訳を聞くと勤めを終えから病院に来
る人も多いので、夜も遣っているのだという。施設があれば、後は医者が居れば24時間でも治療は可能で
あろう。日本の場合は医者も施設も十分とは言えないのでは無いか？結局Loriが自宅に電話をし、Hugh
の在宅を確認したので、鍵の問題は解決した。

11月3日7時にアパートを出てLaGuardia空港に向かう。地下鉄とバスを乗り継ぎ1時間ほどで付く。
Loriは夜勤から2時ごろ帰っており、僕が出る時は起きていた。現金も少なく、カードは最終的に受け取
り使って見るまでは、安心できない。最悪は帰国するまでカードは使えない可能性もある。安全のために
Loriから100ドル借りて分かれる。

NYからWashington DCに飛び、乗り換えて物効叩付のCharlestonに向かう。アメリカには何回も来
ているが、其の都度寄り道をする事にしている。何時の間にか合衆国の全ての州を回って見たいと思う様
にも成っている。既に30州は回っているの、早晩回り切る事に成ろう。

100キロマラソンじゃあ〜なる

5242

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

1984年9月15日第1号発行〜

2009年11月15日



アメリカはロッキーやアパラチアの山岳部を除けば非常に平坦な土地である。今回飛んだ大陸東岸も殆ど平らである。特に Charleston の辺りは堆積地で非常に平らな事が機上より見て取れる。この事は二つの事から分かる。一つは海岸または川岸の家からは航海可能な水辺迄出る為の非常に長い棧橋が沢山見られることであり、もう一つは海岸を航行する船舶の航跡が白色ではなく茶色を帯びて居ることだ。海が遠浅な為、海底の泥をスクリーが巻き上げて居るからだ。全体には緑であるが、浜辺には砂紋は無く、複雑な泥紋が出来ている。流れが平らな故に最早川には粒径の大きな砂を動かす力は無く、細かい泥の洲を長年に渡って作り続けた結果、今のこの奇妙な地形になったのであろう。

Charleston International Airport は空軍の飛行場に間借りをしている様な物だ。沢山の大型輸送機が停まっていた。飛行場で町までの交通手段について聞く。バスは一時間に一本しかないが、運よく15分程で来ることになって居るので利用することにする。外に出ると快晴で、気温湿度ともに快適である。バスの老人料金は半額の70円程度である。Shuttleを利用すると15ドルだと言っていた。40分ほどで町の中心部に着く。其処からバスの乗り継ぎもあるが、15分程で歩くことが出来る事が分かっているので歩く。何れにせよ今日の宿は一泊25ドルの安宿でCheckinは17時と成って居るので、早く行っても何の役にも立たない。

案の定着いた時は早過ぎ、Hostelの中には入ること出来なかった。暫く入り口のベランダに座り待っていると、泊まりっている客が扉を開けて中に入れて呉れた。間もなく受付の時間となり、先ずカードが届いているかと尋ねる。感知していないとの返答であった。早速また Visa に電話はする。配達を担当した DHL は今朝9時前に受け取りのサインをした書類を持って居り、確かに配達したとの事であった。再度窓口の女にこの件を話すが、誰のサインが入った書類なのかを確かめて呉れという。逆に此方は朝の当直は誰だったのかを聞きだす。結局其の日は拉致が開かず、翌日になってやっとカードを手にする事出来た。Hostel 内での連絡不良で、丸一日受付の机の中でカードは休息をしていたのだ。カードは手にしてもこれで安心する訳には行かない。本当に使える事を確認しなければ、単なるプラスチックの欠片に過ぎない。サインで使える確認と、暗証番号でも使える事を余計な物を買って確かめ、ヤット安心が出来た。之で Lori からも借金も返せる。

其の日は Charleston の町の中を歩き回る。地図を見るとこの町は NY に地形が良く似ている。町の中心部である半島は Manhattan と同じ様に東西とも川が流れ、南は深い湾に面している。川の東には Brooklyn に相当する地形があり、南西には Staten Island に相当する島もある。勿論人口や町の大きさは NY の比ではない。水に囲まれ緑豊かな落ちついた町だ。

宿は町の繁華街まで10分ほどの半島の西側にあり、橋の掛かる Ashley 川までは300m程である。橋を渡り対岸を目指す、橋の中央で引き返す。川幅は500m程、対岸には目ぼしいものが無い様な気がした。橋の上からは兩岸に可也の幅に渡ってやや黄色味を帯びた背丈の低いイネ科の草が見える。水は灰色に濁っている。橋桁傍で杭を打ち込む作業をしていたので、暫し見入る。船から大きなクレーンを使い、錘を杭の頭に落下させて打ち込んでいたが、一回の落下で2-3m程打ち込まれていた。川底が軟らかい堆積層である証だ。

先ずこの半島を反時計周りに180度程周り、その後中心部の繁華街を回ることにする。出来るだけ川に近い道歩く。町並みは綺麗で、街路樹の手入れも好く出来ている。途中の岸辺では釣りを楽しむ人々を見かける。途中で道を間違え、中心部近くまで行ってしまった。気が付いた所は Cannon Park であり、何処に Cannon があるのかを聞くが此処には無いと言う。名前の由来は何なのであろうか？

再び川岸を歩く。沢山のヨットやモーターボートが係留されて居る。正午近くになって居り、日差しは強く、街路樹の日陰も小さい。沿岸警備隊の基地を通り過ぎ、更に歩くと、大きな公園に着く。此処は日陰が多く、一息つける。島の先端であり、此処には沢山の砲台が並べられていた。White Point Garden と銘が出ていたが、NY の Battery Park に相当する所だ。遠浅の湾があり波が穏やかなこの地は襲撃上陸には良い所で、其の為防衛基地や砲台の備えが必要だったのだ。

半島の先端を回り、東側を北上する。こちら側の川は Cooper であり、幅も広い。この点は NY とは正反対である。此方の方が町として先に開けた所であろうか、小さな路地が多い。

立派に整備された Waterfront Park があり、Cruise 船の棧橋もある。其の先にはコンテナクレーンが何機か立っている。対岸には空母が浮かび、艦載機もハッキリと見える。Charleston は良港なのであろう。岸辺を離れ町の中心部に向かう。観光客を乗せた馬車を見かける。町の中にもそれ程高層の建物は無い。一番高いのが教会の尖塔である。古い町なので、教会は沢山あり、観光の目玉と成っている。アメリカで一番古い郵便局がこの町にあると宿で誰かが言っていたので、中に入って訊いてみる。200年昔から業務をしていると、係りの女性は言っていたが、一番古いことは否定した。Internet で調べると最古の郵便局は New Hampshire にある様だ。1806年からの継続営業と言うので、Charleston の物も其れとほぼ同じ歴史を持つものと思われる。

南北に通る道路に King 通りがある。此処は何キロにもわたり、立派な店が並んでいる。小さな町なので、4時ごろにはほぼ見たい所は見尽くした。Cooper 川に架かる橋を渡り対岸まで行って見る。長大な橋で、下は大きな船が通れる。川の上流には更に多くのコンテナクレーンが見える。橋の長さは3キロを超える。歩いている人、走る人、ローラーブレードや自転車に乗っている人々が行き来している。車道とは完全に分離されているので、走りのコースとして利用している人は多いようだ。往復して宿に帰った時はすっかり暗くなっていた。

Internet で明日と明後日の宿の手配をする。明日行くノースカロライナの Charlotte は適当な物が探せないで諦め、あちらに着いてから探すことにする。明後日は Charleston の空港の傍のホテルの予約をする。早い便なので、市内の宿ではタクシーを利用しなければならず、時間的にも好ましくない。

5242へ行く